令和3年度 事業報告書

(令和3年4月1日~令和4年3月31日)



学校法人 東京女子医科大学

令和3年度 事業報告書の訂正について

この度、過去に公表してまいりました令和3年度事業報告書に誤りがあったことが判明いたしました。本件につきまして、お詫び申し上げるとともに、下記のとおり訂正させて頂きます。

記

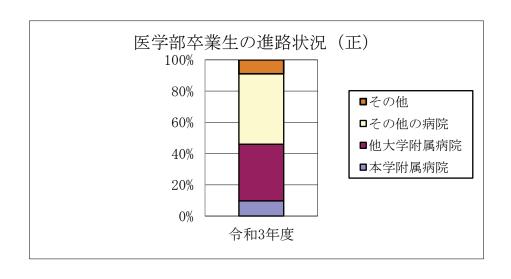
【訂正箇所】

12 ページ

③卒業生の進路(令和3年度)

(正誤表)

	誤	正
卒後研修先(大学附属病院・本学)	12. 4%	9. 7%
卒後研修先(大学附属病院・他大学)	39. 8%	36. 3%
卒後研修先(大学附属病院・その他の病院)	46.0%	45. 1%
その他	1.8%	8.9%



目 次

Ι.		長ご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
		の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
1	. 理念	念・目的·····	
	(1)	設立目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(2)	中長期ビジョン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(3)	沿革 (簡略)	
	(4)	組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(5)	役員等·····	
	(6)	施設等所在住所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
2	. 設置	置する学校・学部・学科等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(1)	大学・大学院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(2)	専修学校·····	
3	. 学音	羽・学科等入学定員、学生数の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(1)	入学定員、入学者数、収容定員、学生数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(2)	学生の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(3)	入学試験、国家試験、卒業進路・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
4	. 大賞	学院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(1)	学位授与状况・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
5	. 社会	∖人教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(1)	バイオメディカルカリキュラム (先端生命医科学研究所)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(2)	認定看護師教育センター(看護学部)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
6	. 研究	5. ででである。	
	(1)	外部資金の獲得状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(2)	主たる公的研究事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
7	. 教職	缴員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(1)	教員数······	
	(2)	職員数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(3)	研修生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(4)	合計	
8	. 医源	寮施設の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(1)	施設名・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(2)	外来・入院患者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
Ⅲ.		の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
1		圣営、教育、研究、医療、事務」領域別の事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	[経営 】	
	(1)	経営統括部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(2)	法務部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	[教育 】	
	(1)	医学部・医学研究科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	••27

(2)	看護学部・看護学研究科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
(3)	看護専門学校・・・・・・・・・・・・・・28
(4)	図書館・・・・・・・・・・・・・・・・・29
(5)	女性医療人キャリア形成センター・・・・・・29
(6)	統合教育学修センター・・・・・・・・・・30
(7)	保健管理センター・・・・・・・30
(8)	国際交流・・・・・・・・・・・・・31
(9)	公開講座・・・・・・・・・・・・・・・・32
[\$ 1917 L
(1)	先端生命医科学センター·····32
(2)	総合医科学研究所・・・・・・・・・・32
(3)	実験動物研究所・・・・・・・・・・・34
(4)	研究推進センター・・・・・・・・・・・・・35
[医療 】 35
(1)	東京女子医科大学病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
(2)	附属足立医療センター・・・・・・・・・・・36
(3)	附属八千代医療センター・・・・・・・・・・36
(4)	附属成人医学センター・・・・・・・・・・・37
(5)	附属東洋医学研究所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
[事務】 38
(1)	総務部・・・・・・・・・・・・・・・・・38
(2)	内部監査室・・・・・・・・・・・・・・・・39
(3)	医療安全・危機管理部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
2. 認	可事項等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
(1)	寄附行為の改定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
(2)	大学学則、大学院学則、看護専門学校学則の一部改定・・・・・・・・・・・・・40
	务の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
-	業活動収支計算書······42
2. 資	金収支計算書・・・・・・・・・・・・・・・・・43
3. 貸	借対照表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44

I. ごあいさつ

平素より本学の活動にご理解ご協力いただきまして、誠にありがとうございます。深く御礼申し上げます。また、令和2(2020)年2月頃から国内での感染拡大が始まった新型コロナウイルス感染症は、未だに収束しておらず、現在も変異株(オミクロン株)の猛威により、依然、大変困難な状況が続いております。新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた皆様方に謹んで哀悼の意を表するとともに、現在も罹



患されておられる皆様方のご回復をお祈りし、心より御見舞申し上げます。そして、長く続くコロナ禍の中、医療の最前線でご尽力されておられる医療従事者・関係各位の皆様に心より敬意を表し、深く感謝申し上げます。

さて、この度、令和 3 (2021) 年度の学校法人東京女子医科大学事業報告が完成いたしましたので、ここにご報告させていただきます。本書は、この 1 年間の教職員一同の努力の結果であります。ぜひともご一読いただき、本学の活動に対するご理解を深めて頂きますとともに、今後とも本学への変わらぬご指導ならびにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本学は、学祖吉岡彌生先生はじめ多くの先人の皆様方によって築かれた歴史と伝統を継承し、本年、令和4(2022)年12月5日には創立122周年を迎えます。また、私が平成31(2019)年4月1日付で、学校法人東京女子医科大学理事長に就任してから3年が経ちましたが、この責務の重さとともにコロナ禍での大学運営の厳しさを痛感しております。私たち女子医大人は、学祖吉岡彌生先生による本学の建学の精神「医学の蘊奥(うんおう)を究め兼ねて人格を陶冶し社会に貢献する女性医人を育成する」と、本学の理念「至誠と愛」のもと、懸命に大学と病院を運営し、より質の高い安心安全な医療を提供する「患者様ファースト」の医療機関として、引き続き社会に貢献してまいります。今後ともご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。

本学の令和 3 (2021) 年度の財務状況としましては、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス 感染症による影響から、他の医科大学や医療機関と同様、外来および入院患者の減少を受け、更 に、足立医療センター新病院への移転に伴う一時的な診療制限等が大きく影響しており、令和 3 (2021) 年度決算において、本学の医療施設全体での医療収入は、昨年度比でマイナス 11 億 5 千万円の減収となりました。また、新型コロナウイルス感染症の患者受入に関連した医療機関への特例的な国からの補助金として、本学は約99億円の交付を受けたことなどにより(但し、文科省経常費補助金については、前年比マイナス5億3千万円の減少)、基本金組入前収支差額としては、約59億9千万円となりました。しかし、昨年度比でマイナス約22億5千万円の減少となっており、実力ベースでの経常収支差額ではマイナス60億8千万円と大変厳しい状況であります。

次に、施設将来計画につきましては、令和 2 (2020) 年 2 月 10 日に竣工いたしました新校舎棟「彌生記念教育棟」・「巴研究教育棟」においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和 2 (2020) 年 6 月上旬から使用開始となりましたが、新型コロナ蔓延防止の対策を万全にし、密を避けた学習環境を整え、稼働しております。また、荒川区西尾久から足立区江北への移転のために建設工事を進めておりました新病院「東京女子医科大学附属足立医療センター」と「東京女子医科大学看護専門学校」の新校舎につきましては、令和 3 (2021) 年 11 月に無事竣工し、「東京女子医科大学附属足立医療センター」は、令和 4 (2022) 年 1 月に晴れて開院いたしました。

また、医学部を有する各大学において急務の課題となっております「医師の働き方改革」につきまして、本学では労務担当理事を中心に、令和3(2021)年8月より「働き方改革検討部会」を立ち上げ、まずは本学の課題について、現状を踏まえて考慮し、より良い労働条件に改善できるよう検討を重ねております。本学の全教職員と共に、女子医大版の新しい制度を作り上げてまいります。本学は今後も引き続き、社会に貢献する女性医療人そして指導的立場の女性医療人の育成をより一層すすめるとともに、新たな時代を切り拓く「女子医大人」の育成に尽力してまいります。

結びになりますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が一日も早く収束することを願い、 オール女子医大でこの難局を乗り越えてまいります。関係各位の皆様方におかれましても、お身 体ご自愛いただきながら、今後益々のご健勝とご多幸を祈念いたします。

令和 4 (2022) 年 5 月

学校法人 東京女子医科大学 理事長 岩本 絹子

Ⅱ. 法人の概要

1. 理念・目的

(1) 設立目的

<建学の精神>

医学の蘊奥(うんおう)を究め兼ねて人格を陶冶(とうや)し社会に貢献する女性医人を育成する

<使命>

最良の医療を実践する知識・技能を修め、高い人格を陶冶した医療人および医学・看護学研究 者を育成する教育を行う。

<理念>

至誠と愛

<教育目標>

医学部

将来医師が活躍しうるさまざまな分野で必要な基本知識、技能および態度を身に体し、生涯に亘って学習しうる基礎を固める。すなわち、自主的に課題に取り組み、問題点を把握しかつ追求する姿勢を養い、医学のみならず広く関連する諸科学を照覧して理論を構築し、問題を解決できる能力及び継続的に自己学習する態度を開発する。さらに、医学・医療・健康に関する諸問題に取り組むにあたっては、自然科学にとどまらず、心理的、社会的、倫理的問題等も含め、包括的にかつ創造的に論理を展開でき、様々な人々と対応できる全人的医人としての素養を涵養する。

看護学部

- 1. 豊かな人間性を育み、生活者としての人間を理解する基礎能力を有する。
- 2. 多様な価値観を受容し、国際的な視野に立って思考・活動できる基礎能力を有する。
- 3. 人間を成長発達する存在として捉え、看護学に基づき系統的に理解し、健康維持・増進・ 回復、疾病予防と回復にむけて働きかける能力を有する。
- 4. 看護の基本技術を身につけ、人間関係の基盤形成と科学的思考に基づいた看護実践能力を有する。
- 5. 地域における保健・医療・福祉・教育等の関係者と連携し、チーム医療を主体的かつ協調的に担う能力を有する。
- 6. 看護学に必要な研究の基礎能力を身につけ、現状の課題を発信する能力を有する。
- 7. 専門職としての倫理観や自己の能力を評価し、女性医療人として生涯発達しつづける能力を有する。

看護専門学校

- 1. 看護を志す人として人間愛に基づいた温かで誠実な心を育む。
- 2. 生命の尊さを認識し、人間を統合された存在として幅広く理解する基礎能力を養う。
- 3. 人々の健康のあらゆる状態に対し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な 基礎能力を養う。
- 4. 看護を発展させるための対人関係能力を養う。
- 5. 専門職業人としての倫理に基づいた看護が実践できるための基礎能力を養う。
- 6. 保健医療福祉における看護の役割を理解し、チームの中で協働して人々の健康支援ができるための基礎能力を養う。
- 7. 看護について継続して自ら学び、探求する姿勢を養う。

(2) 中長期ビジョン

ビジョン 2025

「本学が歩んできた 120 年の歴史と伝統の継承と

新たな価値の創造による社会貢献を本学の使命とし、持続的な発展を遂げる」

(3) 沿革 (簡略)

明治 33年 (1900) 東京女医学校創立

41 年 (1908) 附属病院開設

45年(1912) 財団法人東京女子医学専門学校設立

東京女子医学専門学校開校

昭和 5年(1930) 附属産婆看護婦養成所開設(昭和22年廃止)

9年 (1934) 附属第二病院開設 (平成17年東医療センターに改称)

19年(1944) 東京女子厚生専門学校(保健婦養成)開校(昭和26年閉校)

22年(1947) 東京女子医科大学予科開設

25年(1950) 東京女子医科大学医学部開設

26年(1951) 学校法人東京女子医科大学認可

附属看護学院(乙種看護婦養成)開設

27年(1952) 東京女子医科大学開校

28年 (1953) 附属看護学院を准看護学院に改称 (昭和48年廃止)

33年(1958) 大学院医学研究科開設

総合研究所開設

40年(1965) 附属高等看護学校開校

(昭和52年附属看護専門学校に改称、平成2年閉校)

44 年 (1969) 看護短期大学開校 (平成 13 年閉校)

昭和	44年	(1969)	医用技術研究施設開設
	47年	(1972)	附属第二高等看護学校開校
	49年	(1974)	実験動物中央施設設立
	50年	(1975)	看護短期大学専攻科(助産婦養成)開設
			附属成人医学センター開設
	51年	(1976)	医用技術研究施設を医用工学研究施設に改称
	52 年	(1977)	附属第二高等看護学校を附属第二看護専門学校に改称
	57年	(1982)	附属膠原病リウマチ痛風センター開設
平成	4年	(1992)	附属東洋医学研究所開設
			附属青山病院開設
	7年	(1995)	附属第二看護専門学校を看護専門学校に改称
			附属第二病院田端駅前クリニック開設
	9年	(1997)	附属女性生涯健康センター開設
	10年	(1998)	看護学部開設
	13年	(2001)	医用工学研究施設を先端生命医科学研究所に改組
	14年	(2002)	大学院看護学研究科開設
	15年	(2003)	附属青山女性・自然医療研究所開設
	16年	(2004)	附属遺伝子医療センター開設
	17年	(2005)	附属第二病院を東医療センターに改称
			国際統合医科学研究インスティテュート(IREIIMS)開設
	18年	(2006)	附属八千代医療センター開設
	19年	(2007)	東医療センター田端駅前クリニック閉鎖
			東医療センター日暮里クリニック開設
			附属東洋医学研究所を田端駅前クリニック跡地に移転、開設
			がんセンター開設
	20年	(2008)	先端生命医科学センター開設
	21年	(2009)	男女共同参画推進局設立
	22 年	(2010)	国際統合医科学研究インスティテュート(IREIIMS)閉鎖
			統合医科学研究所(TIIMS)開設
			医療人統合教育学習センター開設
			(平成30年医療人統合教育学修センターに改称)
	23 年	(2011)	学生健康管理センター開設
	24 年	(2012)	臨床研究支援センター開設
	26 年	(2014)	附属青山自然医療研究所閉鎖

平成 28年 (2016) 附属青山病院閉院

附属青山女性医療研究所閉鎖

29年 (2017) 男女共同参画推進局を女性医療人キャリア形成センターに改称

附属膠原病リウマチ痛風センター分室閉鎖

附属女性生涯健康センター閉鎖

東医療センター日暮里クリニック閉鎖

臨床ゲノムセンター開設(令和2年閉鎖)

実験動物中央施設を実験動物研究所に改称

30年(2018) 附属膠原病リウマチ痛風センター、附属遺伝子医療センターを東京女子

医科大学病院に統合

令和 元年 (2019) 東洋医学研究所を河田町に移転

2年(2020) 彌生記念教育棟、巴研究教育棟竣工

臨床研究支援センターを研究推進センターに統合

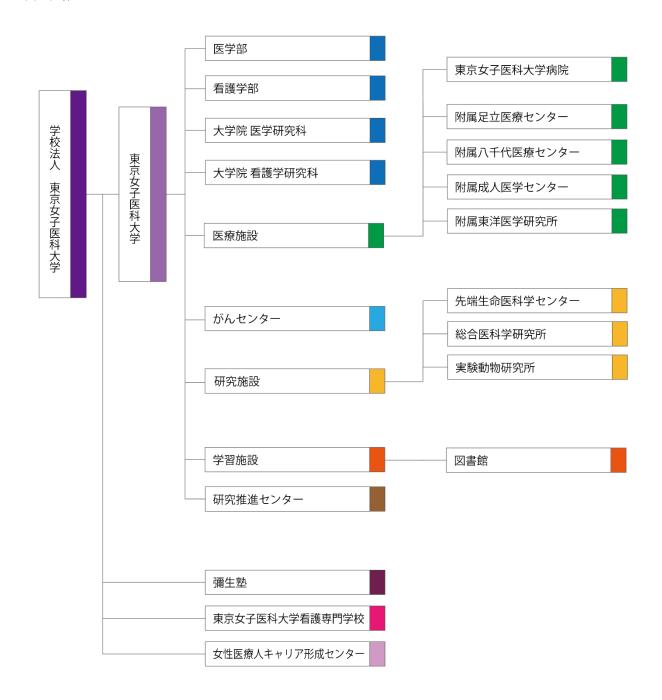
医療人統合教育学修センターを統合教育学修センターに統合

3年(2021) 総合研究所と統合医科学研究所を総合医科学研究所に統合

看護専門学校を足立区江北に移転

4年(2022) 東医療センターを足立区江北に移転、附属足立医療センターに改称

(4) 組織



(5) 役員等

1) 理事 (令和4年3月31日 現在の職責)

役職名	氏 名	理事の任期	担当	備考
理事長	岩本 絹子	令和3年4月1日~令和8年3月31日	経営統括理事 法務担当理事	
常務理事	肥塚 直美	令和3年4月1日~令和8年3月31日	研究部門担当理事 女性医療人キャリア形成センター長	
学長理事	丸 義朗	平成31年4月1日~令和4年3月31日	教育部門担当理事	学長任期
医学部長理事	石黒 直子	令和2年4月1日~令和4年3月31日	労務担当理事	医学部長任期
看護学部長理事	小川 久貴子	令和2年4月1日~令和4年3月31日		看護学部長任期
病院長理事	田邉 一成	令和2年4月1日~令和4年3月31日	医療部門担当理事 医療安全·危機管理担当理事	病院長任期
理事	浜田 健一郎	令和3年11月25日~令和8年3月31日		
IJ	三輪 洋子	令和3年4月1日~令和8年3月31日		
IJ	川畠 弘子	令和3年4月1日~令和8年3月31日		
IJ	内潟 安子	令和3年11月25日~令和8年3月31日	広報担当理事	
IJ	新井田 達雄	令和3年4月1日~令和8年3月31日		

2) 監事

監事	小野 由子	令和3年6月1日~令和8年5月31日
監事	宮島 俊彦	令和 3 年 6 月 1 日~令和 8 年 5 月 31 日
監事	秋山 一弘	令和 3 年 6 月 1 日~令和 8 年 5 月 31 日

3) 評議員

選出区分	定員	現員
学 長	1	1
学 部 長	2	2
本院病院長	1	1
至 誠 会	9~14	10
教 職 員	8~9	8
学識・功労	4~7	5
計	(25~34)	27

(6) 施設等所在住所(令和4年3月31日現在)

大学・本部 医学部、看護学部、大学院、図書館 〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1

看 護 専 門 学 校 〒123-0872 東京都足立区江北 4-33-2

研究施設

先端生命医科学センター、 〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1

総合医科学研究所、実験動物研究所

東京女子医科大学病院〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1

附属 足 立 医療 センター 〒123-8558 東京都足立区江北 4-33-1

附属八千代医療センター〒276-0046 千葉県八千代市大和田新田477-96

附属成人医学センター〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-15-1 渋谷クロスタワー20 階

附属東洋医学研究所〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1

2. 設置する学校・学部・学科等

(1) 大学・大学院

東京女子医科大学 (学 長 丸 義 朗) 医学部医学科 (医学部長 石 黒 直 子) 看護学部看護学科 (看護学部長 小 川 久貴子) 大学院医学研究科 (研究科長 義 朗) 丸 大学院看護学研究科 (研究科長 丸 義 朗) 図書館 (館 長 宮 田 麻理子) 先端生命医科学研究所 (所 長 清 水 達 也) 総合医科学研究所 (所 長 三 谷 昌 平) 実験動物研究所 (所 長 本 田 浩 章)

(2) 専修学校

東京女子医科大学看護専門学校 (学校長 内潟 安子)

3. 学部・学科等入学定員、学生数の状況

(1) 入学定員、入学者数、収容定員、学生数

(令和3年5月1日現在 単位:人)

学校名	学部 • 研究科	学 科	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
東京女子医科大学	医学部	医学科	110	113	660	674
	看護学部	看護学科	90	90	360	369
		学部 計	200	203	1,020	1, 043
		形態学系専攻	5	0	20	3
		機能学系専攻	4	1	16	1
		社会医学系専攻	4	1	16	1
	医学研究科	内科系専攻	8	5	32	33
	博士課程	外科系専攻	10	4	40	24
	看護学研究科 博士課程	先端生命医科学系専攻	8	12	32	32
東京女子医科大学		共同先端生命医科学系専攻	5	2	15	14
大学院		医学研究科小計	44	25	171	108
		看護学専攻(前期課程)	16	5	32	17
		看護学専攻(後期課程)	10	1	30	12
		看護学研究科小計	26	6	62	29
	大	70	31	233	137	
東京女子医科大学 看護専門学校		看護学科 3年課程	80	73	240	238
	合 計		350	307	1, 493	1, 418

(2) 学生の推移 (単位:人)

学校名	学部・研究科・学科	令和元年	令和2年	令和3年
	医学部	669	672	674
東京女子医科大学	看護学部	360	360	369
	計	1,029	1,032	1, 043
	医学研究科	95	104	108
東京女子医科大学大学院	看護学研究科博士前期課程	21	21	17
· 宋尔女] 区代八子八子阮	看護学研究科博士後期課程	15	15	12
	計	131	140	137
東京女子医科大学看護専門学校	看護専門学校	271	260	238
	総計	1, 431	1, 432	1, 418

(3) 入学試験、国家試験、卒業進路

1) 医学部

① 入試状況

	一般					推薦			
年 度	志願者	入学者	猪 倍 率 入学者I		(学者内訳		志願者	入学者	倍 率
	(人)			現役	一浪	その他	(人)	(人)	僧※
令和2年度	1390	75	18. 53	12	32	31	97	20	4. 85
令和3年度	945	78	12. 12	17	31	30	51	20	2. 55
令和4年度	681	66	10. 32	10	18	38	49	44	1. 11

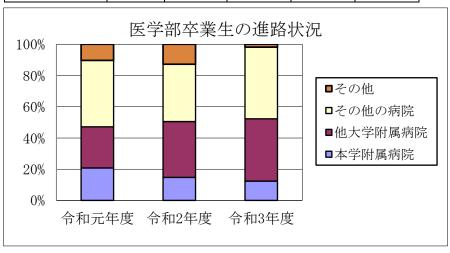
※倍率=志願者/入学者

② 医師国家試験合格率

実施年 (回)	新卒者のみ	新卒全国平均	既卒者のみ	既卒者込	全国平均
令和2年(第114回)	92.5%	94.9%	91. 7%	92.4%	92. 1%
令和3年(第115回)	92.5%	94.4%	70.0%	90.6%	91. 4%
令和4年(第116回)	92.0%	95.0%	58. 3%	88.8%	91. 7%

③ 卒業生の進路

_	十木工。					
		卒業生		卒後研修先		
	年 度	人数	大学附属病院		その他	その他
		(人)	本 学	他大学	の病院	
	令和元年度	106	20.8%	26.4%	42.5%	10.4%
	令和2年度	109	14. 7%	35.8%	36. 7%	12.8%
	令和3年度	113	12. 4%	39.8%	46.0%	1.8%



2) 看護学部

① 入試状況 (一般·推薦)

			_		推薦				
年 度	志願者	入学者	倍率				志願者	入学者	倍 率
	(人)	(人)	(倍) ※	現役	一浪	その他	4	(人)	(倍) ※
令和2年度	590	45	2. 65	43	1	1	89	45	1. 98
令和3年度	304	61	1. 43	57	4	0	29	29	1.00
令和4年度	333	63	1. 40	54	7	2	30	29	1. 03

※倍率=志願者/正規合格者+補欠繰上げ合格者

② 入試状況 (編入学)

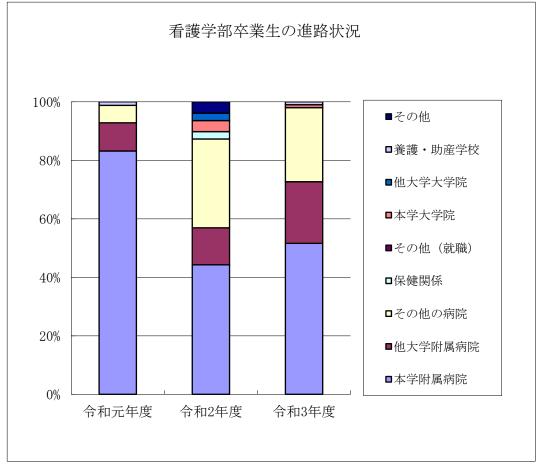
※平成23年度より編入学の募集を停止した。

③ 国家試験合格率

字坛左	看護師			保健師			助産師 (看護学研究科)		
実施年	新卒者のみ	既卒者 込	全国 平均	新卒者のみ	既卒者 込	全国 平均	新卒者のみ	既卒者 込	全国 平均
令和2年 (第109回)	96. 4%	94. 1%	89. 2%	100%	100%	91.5%	83. 3%	83. 3%	99. 4%
令和3年 (第110回)	97. 4%	95. 1%	90. 4%	100%	86. 7%	94. 3%	100%	100%	99. 6%
令和 4 年 (第 111 回)	100%	99%	91.3%	86. 7%	86. 7%	89.3%	100%	100%	99. 4%

④ 卒業生の進路状況

年度の	卒業生		就職					進学			
	の人数	大学附	属病院	その他 保健	その他	大学院		養護・ 助産学校	その他		
	(人)	本学	他大学		関係	C • 7 E	本学	他大学			
令和元年度	83	83. 1%	9.6%	6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	
令和 2 年度	79	44. 3%	12.7%	30.4%	2.5%	0.0%	3.8%	2. 5%	0.0%	3. 9%	
令和 3 年度	95	51.6%	21.1%	25. 3%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	1.0%	0.0%	



3) 看護専門学校

① 入試状況 (一般·推薦)

		一般							推薦		
年 度	志願者 入学者		倍 率 入学者内訳				志願者	入学者	倍 率		
	(人)	(人)	(倍) ※	現役	大学	短大	その他	(人)	(人)	(倍) ※	
令和2年度	169	41	4. 12	28	1	1	11	35	21	1. 67	
令和3年度	96	40	2. 4	13	12	3	12	15	10	1.5	
令和4年度	109	39	2.8	21	6	2	10	26	25	1. 04	

※倍率=志願者/入学者

② 入試状況(社会人)

				社会人			
年 度	志願者	入学者	倍 率	率 入学者内訳			
	(人)	(人)	(倍)※	高校卒	大学	短大	その他
令和2年度	80	18	4.44	8	8	1	1
令和3年度	42	23	1.83	8	11	4	0
令和 4 年度	87	20	4. 35	7	11	2	0

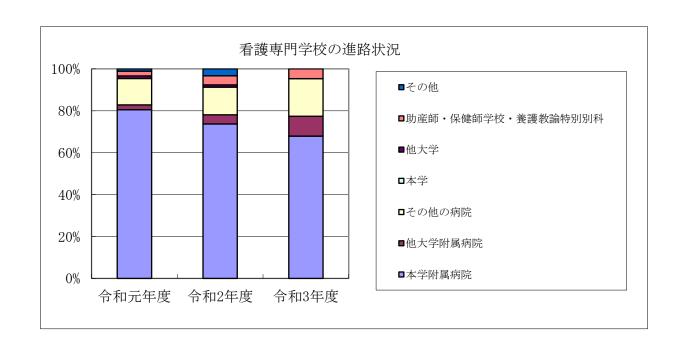
※倍率=志願者/入学者

③ 看護師国家試験合格率

実施年 (回)	新卒者のみ	既卒者込	全国平均
令和2年(第109回)	98.9%	95.8%	89. 2%
令和3年(第110回)	96. 7%	96. 7%	90. 4%
令和4年(第111回)	100%	98.8%	91. 3%

④ 卒業生の進路

	卒業生		就職			進	:	その他
年 度 の人数	の人数	大学附属病院		その他の	大 学		助産師·保健 師学校·養護	
	(人)	本 学	w n w 振隆 r w n w	教諭特別別科				
令和元年度	87	80.5%	2.3%	12.6%	0.0%	1.2%	2.3%	1.1%
令和 2 年度	90	74. 4%	4. 4%	13.3%	0.0%	1.1%	4.4%	3.3%
令和 3 年度	84	67. 9%	9. 5%	17.9%	0.0%	0.0%	4. 7%	0.0%



4. 大学院

(1) 学位授与状况

(単位:人)

研	究科・専攻	学 位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	以能学 玄東功	博士(課程)	1	0	2
	形態学系専攻	博士 (論文)	0	2	0
	w. 外. 少. 方 市. Th	博士 (課程)	0	1	0
	機能学系専攻	博士 (論文)	0	0	0
	九 人医 <i>巴</i> 亚再办	博士 (課程)	0	0	0
	社会医学系専攻	博士 (論文)	0	2	1
	中利玄東北	博士 (課程)	※ 1 11	※ 1 9	10
	内科系専攻	博士 (論文)	24	20	30
医学研究科	从到玄市中	博士 (課程)	1	3	4
	外科系専攻	博士 (論文)	20	25	18
	先端生命医科学系	博士 (課程)	※ 1 4	※ 1 3	3
	専攻	博士 (論文)	1	0	1
	共同先端生命医科学	博士 (課程)	※ 1 1	※ 1 2	0
	専攻	博士 (論文)	0	0	0
	小計	博士 (課程)	18	18	19
	/]、 計	博士 (論文)	45	49	50
	医学研究科	· 合 計	63	67	69
	看護学専攻	修士(課程)	18	9	11
看護学研究科	但 设 子导火	博士(課程)	※ 1 7	※ 1 3	※ 1 2
	看護学研究和	斗合計	25	12	13
	総 合 計				82

※1 満期退学者を含む

5. 社会人教育

(1) バイオメディカルカリキュラム (先端生命医科学研究所)

	期間	修了生(人)
第 51 期	令和元年10月~令和2年9月	44
第 52 期	令和2年10月~令和3年9月	23
第 53 期	令和3年10月~令和4年9月(予定)	27

(2) 認定看護師教育センター (看護学部)

※令和2年度より募集を停止した。

年 度	分野	志願者 (人)	入学者 (人)
会和二年度	手術看護分野	29	22
令和元年度	透析看護分野	31	21

6. 研究費内訳

(1) 外部資金の獲得状況

令和3年度
(単位:円)

	医学部	看護学部	研究所	合 計
	文科科研費	文科科研費	文科科研費	文科科研費
到 <i>沙</i> 瓜尔弗埃斯人	272, 656, 948	20, 879, 432	67, 668, 400	361, 204, 780
科学研究費補助金	厚労科研費	厚労科研費	厚労科研費	厚労科研費
	79, 832, 000	0	0	79, 832, 000
政府もしくは政府関連 法人からの研究助成金	328, 420, 402	0	420, 218, 274	748, 638, 676
民間の研究助成財団 等からの研究助成金	49, 043, 440	2, 550, 000	3, 300, 000	54, 893, 440
寄附講座	110, 100, 000	0	0	110, 100, 000
奨学寄附金	207, 067, 400	0	1,600,000	208, 667, 400
受託研究費	456, 233, 948	0	54, 092, 121	510, 326, 069
研究費総額	1, 503, 354, 138	23, 429, 432	546, 878, 795	2, 073, 662, 365

(2) 主たる公的研究事業

令和3年度採択分(継続含む)

※○は令和3年度新規採択分

	700 14-1	1 1 1 1 1 X 1/1 1/9LI/N	**/ */ *
採 択 項 目	部署名	令和 3 年度 採択金額 (円)	
国立研究開発法人科学技術振興機構 ムーンショット型研究開発事業 一人に一台一生寄り添うスマートロボット	先端生命 医科学研究所	176, 299, 500	
国立研究開発法人日本医療研究開発機構 橋渡し研究戦略的推進プログラム Cellm-001 による初発膠芽腫治療効果無作為比較対照試験	先端生命 医科学研究所	104, 000, 000	
国立研究開発法人科学技術振興機構 未来社会創造事業 探索加速型 (本格研究) 3次元組織工学による次世代食肉生産技術の創出	先端生命 医科学研究所	84, 630, 000	
国立研究開発法人日本医療研究開発機構 臨床研究・治験推進研究事業 顕微鏡的多発血管炎および多発血管炎性肉芽腫症に対する トシリズマブの有効性、安全性、薬物動態に関する医師主 導治験	リウマチ痛風 センター	56, 117, 555	

文部科学省 研究開発施設共用等促進費補助金 遺伝子機能解析用線虫ストレインの収集・保存・提供	生理学(分子細 胞生理学分野)	47, 769, 000	
国立研究開発法人日本医療研究開発機構 未来医療を実現する医療機器・システム研究開発事業 AI Surgery 実現のための基盤となる臨床情報解析装置ー C. I. A. の開発	先端生命 医科学研究所	39, 839, 463	
厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業 難治性血管炎の医療水準・患者 QOL 向上に資する研究	膠原病 リウマチ内科	35, 997, 000	
国立研究開発法人日本医療研究開発機構 革新的先端研究開発支援事業 エピゲノム不安定性の機構と AYA 癌予防戦略の解明	実験動物研究所	19, 500, 000	
文部科学省 科学研究費助成事業 学術変革領域研究(A) 視床のシナプス刈り込みにおけるプレシナプス機能変化の 解明	生理学(神経生 理学分野)	19, 240, 000	0
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター ムーンショット型農林水産研究開発事業 藻類と動物細胞を用いたサーキュラーセルカルチャーによ るバイオエコノミカルな培養食料生産システム	先端生命 医科学研究所	15, 393, 570	
国立研究開発法人日本医療研究開発機構 地球規模保健課題解決推進のための研究事業 ネパールの遠隔地における糖尿病対策のための健康増進活 動によるランダム化比較介入試験	国際環境• 熱帯医学	13, 000, 000	
国立研究開発法人日本医療研究開発機構 難治性疾患実用化研究事業 脊髄性筋萎縮症における治療有効性モニタリングのための バイオマーカーの開発	ゲノム診療科	11, 930, 750	
厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業 小児急性脳症の早期診断・最適治療・ガイドライン策定に 向けた体制整備	八千代医療 センター	11, 700, 000	0
国立研究開発法人科学技術振興機構 創発的研究支援事業 造血幹細胞運命における新規予知因子の解明	解剖学 (顕微解剖学· 形態形成学 分野)	10, 400, 000	0
国立研究開発法人日本医療研究開発機構 難治性疾患実用化研究事業 薬事承認申請をめざした福山型筋ジストロフィーにおける アンチセンス核酸 NS-035 の第 1/2 相試験 (ステップ 2)	小児科学	10, 400, 000	
厚生労働行政推進調査事業費 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業 ワクチンの有効性・安全性と効果的適用に関する疫学研究	消化器• 一般外科	10, 000, 000	0

7. 教職員

(1) 教員数

<医学部>

(令和3年5月1日現在 単位:人)

年度	教	授	准教	效授	講	師	非常勤	协講師	助	教	助教の 性講師	のうち (再掲)	制口	+
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
令和元年度	96	23	78	26	107	49	359	231	604	432	50	24	1, 244	761
(計)	11	19	10)4	15	56	59	00	1, 0)36	74	4	2, 0	005
令和2年度	94	27	88	22	99	46	315	234	574	428	(47)	(26)	1, 170	757
(計)	12	21	1.	10	14	45	54	19	1, 0	002	(7	(3)	1, 9	927
令和3年度	97	27	90	25	98	42	325	238	527	407	42	24	1, 137	739
(計)	12	24	1.	15	14	40	56	33	93	34	66	6	1,8	376

<看護学部>

(令和3年5月1日現在 単位:人)

年度	度 教授		教 授 准教授		講	講師非常勤講師		助	教	計		
十 及	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
令和元年度	0	11	2	8	2	14	33	26	0	18	37	77
(計)	1	1	1	0	1	6	5	9	1	8	1	14
令和2年度	0	11	2	8	1	18	27	30	0	14	30	81
(計)	1	1	1	0	1	9	5	7	1	4	1	11
令和3年度	0	9	0	6	0	11	21	31	0	9	21	66
(計)	ć	9	(5	1	1	5	2	(9	8	7

<看護専門学校> (令和3年5月1日現在 単位:人)

年度	専任教員		非常勤講師	币(学外)	計			
十 及	男	女	男	女	男	女		
令和元年度	0	14	5	20	5	34		
(計)	14		2	5	39			
令和2年度	0	14	4	20	4	34		
(計)	1	4	2	24		38		
令和3年度	0	13	6	20	6	33		
(計)	13		2	6	39			

(2) 職員数

(令和3年5月1日現在 単位:人)

年度	事務	务系	技術技	支能系	医排	寮 系	教	务系	その	の他	Ē	H
中 皮	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
令和元年度	157	331	51	52	453	2, 618	13	44	30	70	704	3, 115
(計)	48	8	10	3	3, 0	71	5′	7	10	0	3, 8	319
令和2年度	147	301	48	49	457	2, 773	12	47	29	62	693	3, 232
(計)	44	.8	9'	7	3, 2	230	59	9	9	1	3, 9	25
令和3年度	127	275	46	40	424	2, 571	18	48	28	54	643	2, 988
(計)	40	2	80	3	2, 9	95	60	6	8:	2	3, 6	331

- *事 務 系…本部・学務部・病院事務部・各医療施設等の事務職員
- *技術技能系…技術職·技能職(工務技士·電話交換手等)
- *医療系…看護系職員および医療技術系職員(放射線技師・検査技師・薬剤師・栄養士等)
- *教 務 系…教務補助等
- *その他…一般職(労務補助)

(3) 研修生

(令和3年5月1日現在 単位:人)

		(1.10 - 1 - 24 - 1.26 - 1 - 24)						/ •/	
年度	臨床研	臨床研修医		医療練士 研修生※		後期 臨床研修医※		計	
1 &	男	女	男	女	男	女	男	女	
令和元年度	62	81	165	226	149	112	376	419	
(計)	14	43	39	91	20	61	79	95	
令和2年度	65	76	109	165	206	169	380	410	
(計)	14	41	2'	74	3'	375		790	
令和3年度	50	67	29	43	268	270	347	380	
(計)	11	17	72		538		727		

※本学の後期臨床研修制度の見直しのため、平成28年度採用までは 「医療錬士研修生」、平成29年度採用以降は「後期臨床研修医」とする。

(4) 合計

(令和3年5月1日現在 単位:人)

年度	教員数		職員	職員数		研修生		総合計	
中 及	男	女	男	女	男	女	男	女	
令和元年度	1, 286	872	704	3, 115	376	419	2, 366	4, 406	
(計)	2, 1	58	3, 819		795		6, 772		
令和2年度	1, 204	872	693	3, 232	380	410	2, 277	4, 514	
(計)	2, 0	76	3, 9	25	79	790		6, 791	
令和3年度	1, 164	838	643	2, 988	347	380	2, 154	4, 206	
(計)	2, 0	02	3, 6	31	72	27	6, 3	60	

※平成26年度より学校基本調査に基づいた人数を使用したため無給者も加算。

8. 医療施設の概要

(1) 施設名

(令和3年3月31日現在)

東京女子医科大学病院(本院) (病 院 長 田 邉 一 成) 附属足立医療センター (病 院 長 内 潟 安 子) 附属八千代医療センター (病 院 長 新井田 達 雄) 附属成人医学センター (所 長 岩 﨑 直 子) 附属東洋医学研究所 (所 長 木 村 容 子)

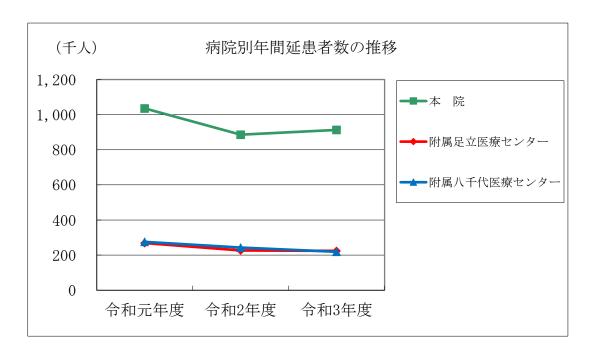
(2) 外来・入院患者数

1) 外来患者数の推移

① 年間延患者数の推移

<病 院> (単位:人)

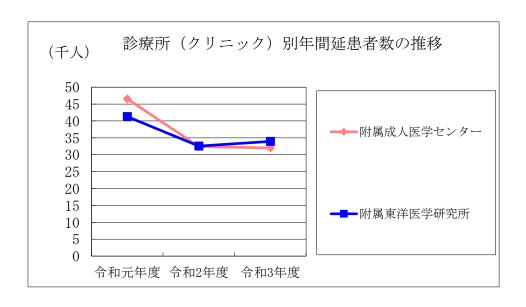
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
本 院	1, 035, 653	886, 024	913, 433
附属足立医療センター	268, 814	226, 802	224, 275
附属八千代医療センター	275, 478	243, 162	219, 023
合 計	1, 579, 945	1, 355, 988	1, 356, 731



<診療所(クリニック)>

(単位:人)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
附属成人医学センター	46, 526	32, 428	32, 016
附属東洋医学研究所	41, 287	32, 566	33, 946
合 計	87, 813	64, 994	65, 962



②一日平均患者数の推移

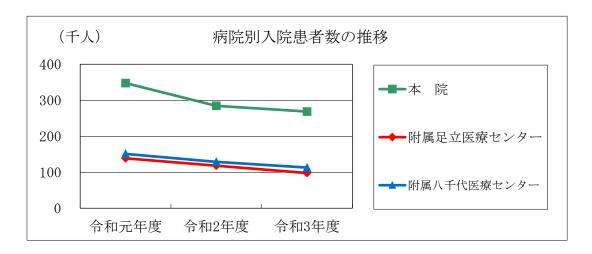
(単位:人)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
本院	3, 712	3, 153	3, 265
附属足立医療センター	967	807	801
附属八千代医療センター	984	865	782
附属成人医学センター	166	115	114
附属東洋医学研究所	164	116	121
合 計	5, 993	5, 056	5, 083

2) 入院患者数の推移

① 年間延患者数の推移

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
本 院	347, 627	284, 252	268, 508
附属足立医療センター	138, 648	118, 115	97, 723
附属八千代医療センター	150, 903	128, 662	112, 948
合 計	637, 178	531, 029	479, 179



② 病床利用率の推移

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
本 院	71.5%(1,316床)	65.0%(1,193床)	61.7%(1,193床)	
附属足立医療センター	84.2% (450床)	71.9%(450床)	59.5%(450床)	
附属八千代医療センター	82.3% (501床)	70.4%(501床)	61.8%(501床)	

※()内の数字は、許可病床数

(単位:人)

(単位:人)

③ 一日平均入院患者数の推移

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
本 院	950	779	735
附属足立医療センター	379	324	268
附属八千代医療センター	412	353	309
合 計	1, 741	1, 456	1, 312

Ⅲ. 事業の概要

1. 「経営、教育、研究、医療、事務」領域別の事業報告

【 経営 】

(1) 経営統括部

- ・包括的・効率的な管理のため新人事システムの導入。
- ・採用・昇進(昇格)・配転など計画的な人事政策の実行。
- ・働き方改革検討部会事務局として働き方改革支援。
- ・施設将来計画の着実なる計画(本院関係・サテライト)。
- ・既存建物及び設備電気関係の老朽化した施設の保全。
- ・高濃度 PCB 廃棄物の掘り起こし調査とコスト削減。
- ・情報システム部門組織の単一化情報セキュリティ啓蒙による ICT 教育。
- ・システム導入時のクラウド化、データセンターの積極的検討。
- ・施設将来計画推進に必要な資金の円滑な調達。
- ・既存ディーラー精査による医薬品の購入価格適正化。
- ・採用品切り替えによる療材料の購入価格削減。
- ・購買業務の強化。

(2) 法務部

ア 規程の整備

- ・同種・関連規程の同時稟申の推進や部署間・担当者間の連携を図った。
- ・規程制定・改廃の迅速化に向けて取り組んだ。
- イ 各医療施設の紛争担当部門との連携した紛争予防及び早期解決支援
 - ・各種紛争案件の一元管理により、法人全体で情報共有・認識共有体制を構築・継続した。
 - ・紛争案件の早期介入・把握のために関係部署と連携を密にし、複雑化、困難化の防止に努めた。
- ウ 紛争解決支援(一般・医療共通)
 - ・紛争解決のために積極的な助言、介入を図り、随時に顧問弁護士との連携を図る等により紛争の適切な解決に努めた。
- 工 契約業務支援
 - ・定型書式の活用で申請フローなどを見直し、業務効率化を図った。
 - ・個別事案に応じた条項の検討を図るなど柔軟な対応を行った。
- オ 懲戒事案の対応
 - ・懲戒委員会の会務を担当し、適切な事案処理に努めた。

【教育】

(1) 医学部・医学研究科

- ア 建学の精神・理念を実践できる女性医療人の育成に向けた卒業生のモニターからのフィードバック とその実践
 - ・建学の精神・理念を実践できる女性医療人としての意識、実践状況、業績を明らかにするために、 卒業生調査の質問内容を両学部共同で策定した。
 - ・2020年度卒業生調査の解析結果に基づく教育の改善案をまとめ、関連委員会に提案した。
- イ 社会規範教育を中心とした人間性涵養とその評価方法の確立
 - ・社会規範教育のプログラムを実施し、人間性涵養を推進した。
 - 外部の専門教員とともに評価方法(項目)の最終版を策定した。
- ウ 臨床実習を中心とした教育体制の充実と国家試験合格率上昇に向けた取り組み
 - ・精神科臨床実習を拡充し、入門型臨床実習は COVID-19 対策で代替授業を、参加型臨床実習では Mini-CEX を予定通り実施した。
 - ・夏季集中講座を開催し成績下位者の対応を実施した。国試合格率(新卒、全体)は全国平均より低かったことから今後のさらなる取り組みが必要と考えている。
- エ コロナ禍にも配慮した学生生活の安全の確保と充実
 - ・学生支援委員を各学年20名以上置き、面談は各学年2回/年以上実施した。
- オ コロナ禍を見据えた学生・教員の新しい国際交流の方法の検討と実践
 - ・令和3年度は海外交換留学を中止したが、代替としてアナザースカイを10回、アバターロボット を利用した米国との交流を1回実施した。
 - ・安全保障貿易管理を教授会で周知し、Google フォームを活用した申請により効率化を図った(申請 49件)。
- カ 現行の入試体制の見直しとより緻密な体制の構築、質の高い入学者増加への取り組み
 - ・COVID-19 の感染状況等を加味した適切な SOP を策定した。
- キ 統合教育学修センター・学務課間の教職協働の推進による仕事の効率化
 - ・教育のシステムやICTはセンターが中心となり実施した。
 - ・授業時間集計が難しかった実習部分は、センター作成のエクセルのフォーマットで提出するように したことより集計が容易になることが期待される。

(2) 看護学部·看護学研究科

- ア 建学の精神・理念を実践できる女性医療人の育成と卒後調査をふまえた還元
 - ・建学の精神・理念を実践する女性医療人としての意識、実践状況等から教育効果を明らかにするため卒後調査を実施した。今後、教育プログラムの改定版を作成する。
- イ 社会規範教育を中心とした人間性を育む教育プログラムと指標の検討・試案化
 - ・人間性を育む教育プログラムの改善を図り、令和4年度用の教育動画を医看合同で作成した。
 - ・外部専門家の協力を得て教育目標の指標化と測定尺度を開発し、令和4年度より使用を開始する。
- ウ 臨床教育体制と国家試験対策の強化
 - ・感染対策を徹底し代替え演習も取り入れ、臨床講師21名増と教員の協力体制で臨床実習をした。
 - ・全教員で支援体制をとり、全学生にメール支援や模試成績下位52名に99回個別面接を実施した。

- ・ 令和 3 年度国家試験合格率は看護師と助産師は 100%、保健師は 86.7%(13/15 名)であった。
- エ ウィズコロナ/アフターコロナを見据えた学生生活の安全と充実
 - ・COVID-19 感染防止対策を行ったほか、PCR 検査、ワクチンの大学拠点接種を行い、クラスター 発生を 0 に抑えた。
 - ・希望者に対し各種奨学金、緊急給付金手続きのサポートを実施したほか、学生のメンタルヘルスケアを実施した。
 - ・R3 年本学関連病院就職率 52%、今後、就職ガイダンス・病院見学会、新卒採用を早め改善する。
- オ コロナ時代の国際交流方法の開発
 - ・海外留学体験にフォーカスしたオンラインセミナー(アナザースカイ)を両学部で年間プログラム を実施した。
 - ・協定校のバーチャルの FD (ワークショップ) へ参加を推進し、教員間の交流を図った。
- カ 入試体制の見直しと、質の高い入学者増加への取り組み
 - ・Web オープンキャンパス内容を更新し、Zoom による個別相談会を 4 回実施した。
 - ・令和4年度一般選抜321名に増加し、入学者92名(学校推薦29名、一般選抜63名)であった。
 - ・正規合格率13%と昨年度より下降し、入学最低点も例年に比べ下がった。
- キ 教職協働の実践による仕事の効率化
 - ・看護師・保健師・助産師に関わる指定規則変更3件の文科省と大学院CNS更新4件の承認得た。
 - ・教員数減少の中、統合教育学習センターの IR 分析や両学部合同 FD で支援を受けている。
 - ・教授評価および教員の教育・研究・社会貢献などの評価を通じて改善した。

(3) 看護専門学校

ア ディプロマポリシー教育

・ディプロマポリシーである「至誠と愛の実践力」のため、建学の精神、理念について各学年のホームルームや実習のまとめなどで常に触れ考えられるようにした結果、卒業時調査において6割以上の学生が「常に誠実に愛を持って患者さんやその他の人々に接することを忘れない」と回答し、建学の精神、理念が学生に浸透していることを確認した。

イ 国家試験対策

- ・入学時から国家試験対策を計画的に継続し進めた結果、第 111 回 国家試験は 84 名全員が合格した。
- ウ タブレット、PC を使用した授業の導入
 - ・デジタル技術を活用した授業のため、タブレット、PC を導入し、現在まで安定して運用できた。 資料作成、授業前の送付を行うことで、コピーなどの準備時間が減少するなど、教員が本来の教務 に注力できたほか、紙代、インク代も削減した。
- エ コロナ禍における受験者募集活動の強化
 - ・ウィズコロナを見据え、動画配信に加え SNS、Zoom を活用した双方向の個人相談などを行った。
- オ 学籍管理システムクラウド化による成績入力の効率化推進
 - ・学籍管理システムをクラウド化したことで、教員によるタイムリーな成績入力が可能となった。本 格的な成績管理に向け、効率的な運用に向け事務と協働して準備を行った。

(4) 図書館

ア 自校教育

- ・企画展示「医学・看護学・科学に大きな足跡を残した女性」「本学教員著書紹介」を開始し、サイネージを利用し広報した。
- ・東医療センター・看護専門学校の足立区移転に伴う記録保存、撮影作業を遂行した。

イ 積極的な教育支援

- ・「授業目的公衆送信補償金制度と著作権」「学術雑誌選定にあたっての注意点」を教授会にて報告 し、臨床教育動画「CareNetTV」の無料配信、「消費者教育」関連図書について調査し情報を提供 した。
- ウ ICT機器を活用した学修支援
 - ・講演会、式典の撮影・動画配信の依頼には、関連部署と連携し講演会・式典の開催を支援した。
 - ・データベース講習会をリモートで開催し、学生・教職員のアンケートをまとめた。
- エ 教職協働の連携
 - ・ミーティングにて教育研究に関する情報を共有し、図書館内の報告・連絡・相談を徹底した。
 - ・書類は、オンラインストレージに一元管理し業務を効率化した。
- オ 電子ジャーナル契約の整備・適正化
 - ・電子ジャーナル更新手続きスケジュール通り代理店各社・直販各社へ連絡し、方針稟議・確定稟議・ 契約書・発注書・請求書の手続きを終え、契約書の署名・公印手続きを完了した。

(5) 女性医療人キャリア形成センター

ア ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (特色型) 推進

- ・ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)は令和 4 年 3 月 31 日にて事業期間終了。同(先端型)交付決定を受け、特色型に先端的取組を追加した「グローバルヘルスリーダー育成と 更なる女性登用『YAYOI プロジェクト』」を発足した。キックオフミーティングを開催した。 (2021.12.4)
- ・全国ダイバーシティネットワーク組織 good practice に選定され、同シンポジウムにて講演した。 (2021 12.8)
- ・勤務環境改善プロジェクト対象は歯科口腔外科学(口腔顎顔面外科学分野)とし座談会開催。「歯科口腔外科における若手医局員参加型勤務体制の合理化」について医局員に対して効果判定を実施した。

イ 女性医療人リーダー育成部門

- ・キャリアセミナー、リーダーシップセミナー、研究力向上セミナー開催した。
- ・英語論文校正費用一部補助制度において、厳正なる審査の結果1名に支援を行った。
- ウ 女性医師再研修部門
 - ・個別面談、キャリアカウンセリングの累計相談者数は 295 名。新型コロナウイス感染症拡大により 研修受入は中止とし、5 名の復職相談対応を行った。
 - ・「第5回相談者追跡調査」を実施した。当部門への相談が復職のきっかけとなっていた。
- エ 女性医師・研究者支援部門
 - ・2名(臨床系)に研究支援員を配置した。令和4年度より開始となる男性医学研究者への研究支援

員配置に伴い実施要項を作成した。

- ・ファミリーサポート継続支援。JSPS 男女共同参画推進シンポジウムにてファミリーサポート事業 について講演。
- ・女性医師・研究者支援シンポジウム開催 (2021.6.26)
- ・女子中高生の理系進路選択プログラム:サイエンスカフェ開催(2022.3.26)。参加者 21 名。
- オ 看護職のキャリア支援・勤務継続支援
 - ・メンタルヘルスカウンセリング 263 名(879 回)、サポート者カウンセリング 238 名(347 回)実施。
 - ・「本学の看護職者の職務意欲の維持への支援に向けたメンタルヘルスの実態調査」実施(12月)。
 - ・看護専門領域スキルアップ研修は19領域45研修を実施した。
 - ・クリニカルコーチ育成プロジェクトではワークショップ開催し成果を第 17 回東京女子医科大学看 護学会学術集会にて発表した。
 - ・第2回看護師長の変革推進能力向上支援研修を開催した。
 - ・看護領域における論文作成や研究指導を目的とした「ピアサポートの会」を実施した(3回のベ42 名参加)
- カ eラーニングプロジェクト
 - YouTube を活用したコンテンツを 39 本公開し、のべ視聴回数は 3,365 回であった。

(6) 統合教育学修センター

- ア 学部学生教育・病院職員研修等の支援
 - ・感染防止対策を施した医学部生の各実習と OSCE 前自習および S8 入門型臨床実習Ⅱの臨床実習 代替として縫合、点滴、心電図、感染防護具着脱実習を実施。
 - ・他部門/部署との協働と連携による感染症シナリオを含んだ ICLS 講習会と指導者ワークショップ、 CVC 実技試験、経食道心エコーハンズオンセミナー、気道確保困難者ハンズオンセミナー、IV ナース実技試験、看護職新人職員研修等の実施。
 - ・JMP(統計解析ソフト)担当窓口業務を図書館・メディアラボから引き継ぎ継続。
 - ・文科省令和3年度大学改革推進等補助金である「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療 人材育成事業」の採択を受け、次年度に亘って実施。
- イ LMS を導入し、オンデマンド動画配信システムや教学システムと連携した「統合教育プラットフォーム」を構築する。これを基盤として医看護両学部の ICT 環境を整備し、同時性・即応性を持つ双方向性遠隔授業の実現を目指す。
 - ・動画配信システム・教学システムと連携した形式で、LMS (WebClass) の導入を行った。FD、SD としてハンズオンセミナーを 13 回開催し、82 名の教職員の参加があった。同時性・即応性を持つ 双方向性遠隔授業を開始した。

(7) 保健管理センター

- ア 学校安全保健法に基づいた医学部・看護学部・看護専門学校の学生の健康診断の実施と健康管理
 - ・健康診断の実施率は100%達成した。分散登校で事後措置の対応に遅れがでた。
- イ 医学部・看護学部における健康管理教育および教育に還元できる研究の継続
 - ・両学部における健康教育を実施した。

- ウ 医療系大学の学生としての感染症管理
 - ・コロナワクチン接種は 2 回目まで 93%の接種率を達成した。インフルエンザワクチンも例年通り接種できた。
- エ 職員の健康管理体制の強化とメンタルヘルスの向上
 - ・昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染予防対策に配慮して職員健康診断を実施し、毎月長 時間労働者の健康管理やメンタルヘルス不調者の産業医面談を行なった。
- オ 特定健診を取り込んだ職員健診システムの構築とコラボヘルスの推進
 - ・健診システムに昨年度導入した特定健診(メタボ健診)の機能を駆使し、本学の健康保険組合との コラボヘルスを推進し、特定健診受診率の向上に貢献した。
- カ 新型コロナウイルス感染症に対する学生、職員の健康管理体制の強化と予防、陽性者や濃厚接触者となった学生、職員の復学・復職支援
 - ・学生・職員の体調不良者の受診を積極的に進め、感染者の早期発見を行ない、感染が確認された学生や職員の復帰の支援や復帰後の体調管理を行なった。

(8) 国際交流

- ア 学術交流協定関連
 - ・協定更新3件(台湾秀傳紀念醫院、米国マウントサイナイ医科大学、英国カーディフ大学)。
 - ・協定終結3件(カナダ McGill 大学、米国ハワイ大学、米国ペンシルベニア州立大学)。
- イ 学部の学生交流・留学生受入・海外からの訪問者受入
 - ・新型コロナウイルス感染拡大により全て中止。
- ウ 「コロナ禍での新しい国際交流プログラム」実施
 - ・「TWMU アナザースカイ〜世界で活躍するための学生/研究者/医師/看護師へのメッセージ〜」を 医看合同で前年度に引き続き合計 10 回開催 (内 1 回は、XRCC (クロスリアリティ空間) を利用)、 番外編を 2 回開催。
 - ・アバターロボットを用いたバーチャル国際交流を米国ブラウン大学と実施。
 - ・看護学部 HPU (ハワイパシフィック大学) とのオンラインプログラム実施。
- エ 補助金の採択
 - 「経常費補助金[大学の国際交流の基盤整備]」。
 - ・「2021年度海外留学支援制度(短期受入・短期派遣)」採択(中止により辞退)。

オ その他

- 安全保障貿易輸出管理の学内申請受付開始。
- 【文部科学省】大学の国際化促進フォーラム入会。
- ・日米医学医療交流財団医学医療交流セミナー共催。
- ・第 12 回全国医学部国際交流協議会年次総会シンポジウム発表(本学のメタバースを活用した国際 交流の取り組みについて)。

(9) 公開講座

	第 38 回公開健康講座	
対 象 者	一般の方	
開催日	令和 3 年 7 月 10 日~7 月 12 日	
開催方法	Web	
テーマ	「女性医療最前線」	
担当	女性科	

【研究】

(1) 先端生命医科学センター

- ア 産学官連携推進による共同研究加速とそれに基づく研究費獲得・知財権利習得の強化
 - ・クラウドファンディング制度の本学導入に向けた内規変更の原案を作成した。
 - ・クロスアポイントメント制度の本学導入に向けた問題点を整理した。
 - ・次世代医療機器開発連携事業と連携したニーズマッチング会を実施し、医療現場ニーズと企業との マッチングを実現した。
- イ 基礎医学、臨床医学への AI 応用のための研究戦略
 - ・予後リハビリデータも含めた学習用データを 130 例集め、予後予測モデルの精度は 0.7 以上に向上 させた。
 - ・AIメディカルセンターにてAIの医療応用に関するセミナーを2回開催した。
- ウ メディカルイノベーションラボラトリー(MIL)の充足率向上とバイオメディカルカリキュラム (BMC)受講者数の増加に向けて
 - ・BMC 受講生を昨年度から3名増加させた。
 - ・MIL 充足率を 6.5 室から 8.5 室 (9 室中) に向上させた。
- エ 新たな融合研究領域の確立
 - ・培養食料関連プロジェクト(ムーンショット事業)を本格研究にステージアップさせた。
 - ・早稲田大学との研究交流セミナーを企画、運営、開催に協力し両学のシニア、若手研究者の研究交 流を図った。
- オ 国際研究交流による医療研究技術の国際普及と若手研究者の育成の推進
 - ・海外研究機関との web 会議等の開催を実施した(28 回)。
 - ・外国人留学生と若手研究者との研究交流を実施した(8名)。
 - ・海外研究機関との研究交流を新たに開始した(1件)。

(2) 総合医科学研究所

- ア ユーザーのための研究環境の整備(施設設備および設置機器の効率的運用)
 - ・基礎医学系教室から得られた知識・技術を学内利用者に還元するとともに、新規有料支援サービス の立ち上げに役立てた(電子顕微鏡試料作製、免疫組織化学染色、セルソーティング等)。
 - ・総合研究棟及び巴研究教育棟の利用者から、意見や利用状況を踏まえ、適宜改善を行った。

- ・利用者申請方法の Web 入力の導入を行い、機器の効果的な活用・導入を目的とした利用者情報・機器利用・運用状況のデータベース化を進めた。
- ・Web 動画配信を進め、学内外の環境から過去・最新のセミナーや機器デモを視聴できるようにした (閲覧は学内研究者に限定)。
- ・HP 保守業者との契約満期に伴い、新 CMS (Contents Management System)への移行作業を進めた(令和 4 年度運用開始)。
- ・異なる勤務環境にある臨床系研究者と基礎系研究者が機器を共有しやすいよう、機器の利用ルール 改善を適宜行い、周知した。
- ・新型コロナ PCR 検査への協力として、リアルタイム PCR 2 台を本学大学病院へ貸与した。
- イ 解析サービス部門の発展による横断的なトランスレーショナル・リサーチの推進
 - ・解析サービスでは前年度を上回る過去最高の受託実績を達成した(54案件)。
 - ・人工知能を応用した遺伝子解析技術を提供し、新規疾患遺伝子の論文報告につなげた(Maegawa T. et al. PLoS One 令和 4 年 3 月 18 日の大学プレスリリース参照)。
 - ・培養細胞を用いた機能解析の技術提供も論文成果となった(Yamamoto-Shimojima et al., Hum Genome Var. 2021)。
- ウ 遺伝子情報を基盤とする疾患メカニズムに関する基礎的研究と医療に有益な知見を引き出すデータサイエンスの推進
 - ・学術論文発表を通して研究部門の研究成果を学外に報告した(Kurokawa et al., Histochem. Cell Biol., Tanabe, BioRxiv 2021, Hara et al., J Neurosurg Pediatr., Maegawa et al., PLoS One 2022 など)。
 - ・複数の国内製薬企業と共同でセミナーを開催し、研究部門が持つ知識・技術を広めた(第 12 回スクリーニング学研究会「SIG: Phenotype 創薬における HCS 活用ってどこまで進んでいますか?」「WS: HCS のワークフローをデザインする ~サンプル作製から統計解析まで~」)。
 - ・関連学会において研究部門が持つ遺伝子情報解析技術の普及に努めた(第 44 回日本小児遺伝学会学術集会シンポジウムなど)。
 - ・国際共同研究加速基金(国際共同研究(A))によるチューリッヒ大学との共同研究を進めた。
 - ・学内・学外研究者との共同研究に積極的に取り組んだ(学内7件、学外6件)。
- エ 女性研究者に対する研究支援体制の整備と若手研究者の人材育成の推進
 - ・学外から閲覧可能な動画配信システムを立ち上げ、産休・育休中の女性研究者が在宅からでも最新 の研究情報取得や基本的実験技術の習得が行えるようにした。
 - ・教員と技術職員による基本的実験技術の実演や指導、研究支援を適宜行った。
 - ・基礎医学系教室から得られた実験技術を活用し、若手研究者への更なる技術指導・支援の拡充を進 めた。
 - ・実験関連消耗品の払い出しサービスを開始し、若手研究者が少ないコストで研究を進められるよう 支援した。
 - ・セグメント 1、2、6 の講義・実習および大学院初期カリキュラムを実施し、受け入れ大学院生 4 名の研究指導も継続して行った。
 - ・文科省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」申請に向けた学部カリキュラム 策定を進めた。
- オ 総合研究所と統合医科学研究所の合併による効率化と高度化の実現

- ・両研究所の有する有料支援サービスについて相互理解を進め、今後の運用体制について協力体制の 構築を始めた。
- ・将来の巴研究教育棟増築・移転に向けて、両研究所が有する機材を確認し、相互の持つ資産を有効 に活用する方向で一致した。
- ・所員全員での定期ミーティングを行うことで、新研究所の方向性と運用について話し合う場を設けた。

(3) 実験動物研究所

- ア 動物実験の倫理と実験動物の取り扱いに関する教育
 - ・動物実験講習会を行い、撮影 DVD を各教室に配布した。
 - ・大学院初期カリキュラム講義を行い、撮影 DVD を大学院生に配布した。
 - ・技術講習会は 5/21 にラット(受講 2 名)、7/14 にマウス(受講 1 名)、11/26 にマウス(受講 2 名)を行なった。
- イ 動物実験に関する啓発・広報活動の推進
 - ・実験動物研究所の「利用説明、利用法(SPF、感染動物、中動物)」を撮影した DVD を作製し、 登録講座に配布した。
 - ・標準作業手順書(SOP)の改訂を行なった。
 - ・動物実験計画書の審査を行い、動物実験に関する助言を行った。
 - ・研究所 HP(学外) および HP(学内) を更新した。
 - ・年報を J-STAGE に搭載した。
- ウ 実験動物の適正な飼育管理の遂行と検疫の施行
 - ・3ヶ月に1回行なっている微生物モニタリング(マウス・ラット)では、全ての飼育室で実験動物 中央研究所の通常コアセットが陰性であり、清潔な飼育状況(specific pathogen free (SPF))が確 認された。
 - ・外部検証を受講した。検証結果報告書では、施設の管理状況、動物実験計画書の審査、教育訓練の 実施等において高い評価を受けた。
 - ・飼育員が定期的に飼育室を見回り、動物実験施設の環境・衛生状態を管理し、動物の健康状態をチェックしている。
- エ 遺伝子組換えマウス作製、学会と論文による情報発信、外部資金獲得
 - ・今年度は広島大学、横浜市立大学、早稲田大学、東京薬科大学、国立循環器センターから遺伝子組換えマウス作製の依頼があり、トランスジェニック3ライン、コンディショナルノックアウト4ライン、ノックイン3ラインを作製した。体外受精は32ライン、個体復元18ラインを行なった。
 - ・本田浩章は、第16回血液学若手研究者勉強会(麒麟塾)の塾頭を務め、また本学麻酔科主催のセミナーで講演を行った。
 - ・共著として Metabolism, J Immunol, Bone, Pharmacol Ther 等 8 報に論文が掲載された。
 - ・外部資金としては、科学研究費の基盤研究費(B)(一般)、挑戦的研究(萌芽)、科学研究費の基盤研究費(C)、若手研究、革新的先端研究開発支援事業(AMED-CREST)に採択された。
 - ・理研バイオリソースセンター (BioResource Center, BRC) に寄託した遺伝子改変マウスについて、京都大学、愛媛大学から提供依頼があり、理研 BRC を介して凍結受精卵、凍結精子を供与した。
 - ・企業に対する遺伝子改変マウス作製の事業化に向けた各種対応を行なった。

(4) 研究推進センター

- ア 事務の簡素化・迅速化による業務の改善
 - ・研究者支援のための公的研究資金に係る稟議申請等、承認手続き事務の簡素化・迅速化による業務 の改善を行った。
- イ 研究支援業務遂行のための体制整備
 - ・研究資金の円滑な経理管理、共同研究及び受託研究契約等の日常業務の円滑な実施に必要な人員の 確保のための取り組みを進めた。
 - ・治験日常業務の円滑な実施に必要な人員の確保のための取り組みを進めた。
- ウ 研究倫理教育体制の再構築と審査体制の整備
 - ・文科省ガイドラインのチェックリスト項目について、改善および対応を完了し、規程の整備等、体制の整備が終了した。
 - ・倫理教育の達成基準を満たした。
 - ・生命科学・医学系倫理指針に対応し中央一括審査体制を整備した。
- エ 産学官連携の研究活動に係る適切な知財の権利取得の支援
 - ・知的資産マネジメントの抜本的な改革に着手した。
 - ・有望な特許の取得の支援するため外部評価の弁理士と契約し、シーズ紹介会 (DSANJ) へ参加を 始めた。
- オ 研究所に関する事務体制の整備
 - ・総合医科学研究所の関連規程案、各共同利用施設長の承認を得た。総研事務室と連携した事務体制 の効率化及び役割分担の調整を開始した。

【 医療 】

(1) 東京女子医科大学病院

- ・新型コロナウイルス感染症対応会議を毎週開催し、3 病院の連携、現状報告、課題解決、運用の決定を行ったため、クラスター等の大きな影響を及ぼすことはなかった。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大が8月にピークとなり、患者受け入れ数は最大となった。
- ・コロナワクチン接種については、当院の医療従事者や家族のみならず、新宿区の要請に基づき区民 への接種も実施した。
- ・手術件数の増加を目標としていたが、8月における感染拡大の影響もあり達成に至らなかった。
- ・がん診療連携拠点病院について、本年度は厚生労働省ならびに東京都からの申請依頼がなかった。
- ・令和3年度も外部委員を交えた東京女子医科大学病院医療安全監査を2回実施し、監査結果報告については病院ホームページに掲載した。翌年度以降も継続していく。
- ・働き方改革の一環で本院作業部会を設置した、法人と連携し課題解決を進めていくこととした。
- ・医療連携講演会を計画通り年3回 WEB 開催し、地域医療機関との連携を図った。

(2) 附属足立医療センター (旧 東医療センター)

- ア 経営改善と業務の効率化
 - ・新病院での上位施設基準(集中治療管理料、母体・胎児集中治療管理料等)は行政の手続き(保険医療機関の遡及)により、令和4年4月から取得できる予定である。
 - ・診療情報提供診療データ添付加算算定実績について基準値を下回らないよう啓蒙並びに算定漏れ のフォローを実施し、総合入院体制加算施設基準を維持することが出来た。
- イ 円滑な病院移転の実施
 - ・令和 4 年 1 月 1 日に入院患者の移送を無事実施し、旧病院の医療機器、什器備品の新病院移設も順調に進み、1 月 5 日新病院での外来診療をスタートした。
 - ・医療法上等の各種届出書類作成ならびに東京都による開設前検査に対応し、新病院移転事業を円滑 に遂行した。
- ウ 新病院での入退院調整体制の強化
 - 入退院支援の加算算定を推進した。
 - ・入院前に麻酔科問診票を全対象患者に導入し、術前の麻酔科診療の効率化につながった。
 - ・連携システム「ケアブック」を活用した転院調整を実践した。転院調整の6割に相当する400件に活用した。
- エ 新病院移転のための院内全体の 5S 推進
 - ・移転後、各病棟および外来部門を週一回以上ラウンドし、安全点検を徹底している。特に転倒転落 防止対策に重点を置き点検。
- オ 地域医療機関とのネットワーク構築
 - ・新病院に対する地域医療支援病院の審査があり3月に再承認された。
 - ・コロナ禍の訪問制限のため、新病院内覧会期間に各医師会・近隣医療機関向け特別枠(11/14(日)) を設定し、各フロアにて診療部長による診療案内を企画、顔の見える連携を促進した(427名参加)。
 - ・令和4年2月5日城東地区医療連携フォーラムを開催した(院内外 153名参加)。
 - ・足立区歯科医師会の訪問等を実施し、顔の見える活動を推進した。
 - ・紹介状は、令和4年1月度実績:前年月対比21%増、同2月11%増。

(3) 附属八千代医療センター

- ア 法人内医療施設との連携を強化し経営改善と業務の効率化
 - ・COVID-19 の感染拡大により外来患者数、入院患者数が減少し収入の落ち込みが大きくなった。
 - ・国、千葉県、八千代市からの補助金を積極的に申請しこれらの補助金により収支は改善した。
- イ QI を中心としたチーム医療の質の向上
 - ・QI による改善すべき項目として、毎月の改善状況を 14 部門が TQM 会議で報告した。さらに毎月 行っている SQM 委員会で発表した。
 - ・今後も必要な改善事項を QI 項目として順次設定していく。
 - ・日本病院会の QI プロジェクトにも参加している。
- ウ 医師の労務管理の適正化
 - ・医師の当直回数はほぼ月4回以下になった。
 - ・医師の時間外数の報告は毎月の病院管理者会議で引き続き行い診療科長に指導した。

- エ 大災害を想定した体制の構築
 - 防災備品のすべて品目、所在、数量のチェックを終えた。
 - ・夜間の勤務者の数の把握を行った。
 - ・火災時対応について防火区画の図面上での明示、火災発生から消防署への通知および誤報の処理フローの確認を行った。
- オ COVID-19 の補助金を積極的な獲得
 - ・国、千葉県、八千代市からの補助金を積極的に申請した。

(4) 附属成人医学センター

- ・令和3年度の収支差額で黒字化を達成した。黒字転換は少なくとも過去10年間未達成であったが、アフターコロナにおける全職員の取り組みにより実現した。
- ・医学部教育に関して、OSCE評価者、医学部・看護学部の講義、実習、WSの担当と評価を行った。 選択診療科実習では、実習教育担当者を任命し、本学カリキュラムに沿った教育を実施しつつ、個々 の学生ニーズを確認したうえで提供している。
- ・診療に関しては、各科の専門医・指導医と研修施設資格を維持し質の高い医療を提供した。
- ・医療安全・危機管理に関しては、医療安全対策会議を月1回開催し、全職員で事例を共有する体制を構築した。また、その後の経過を検証し、PDCAサイクルを適切に回すことによって、安全・安心な医療の提供を行う心構えを全職員の間で醸成した。
- ・本院との医療連携に関しては、各診療科への紹介に加え、ドックとして PET-CT の連携を行った。 また、眼科の医師派遣による白内障などの手術症例の連携を以前からの継続して行っているほか、 2021 年 5 月からは、循環器内科からも週 1 回の派遣を開始し、虚血性心疾患の本院での精査・施 術連携を実施、順調に症例を重ねている。
- ・渋谷区医師会との連携に関しては、渋谷区医療連携フォーラムを主宰し、年2回の開催を継続した。 コロナ下の状況を鑑みてweb開催に切り替え、各回とも30名以上の参加者で好評であった。

(5) 附属東洋医学研究所

- ・COVID-19 の影響が続いていたが、令和 3 年度の全患者数は 33,946 人(対前年比 104%)であった。漢方部門が 30,195 人(うち初診 950 人)で対前年比の 102%、鍼灸部門は 3,751(うち初診 266 人)で対前年比 130%であり、全国の大学施設のおける東洋医学専門外来の中で最多の患者数となっている。
- ・「東洋医学研究所クリニック(保険)」では、対面による診察が基本であるが、COVID-19 対策の 一環として遠隔診療を活用し、令和3年度の遠隔診療は4,669件と全診療件数の約15%を占めた。
- ・「東洋医学研究所鍼灸臨床施設(自費)」では、感染症対策を徹底した上で施術を行い、詳細については治療室だけでなく、ホームページにも掲示して、感染症対策の周知徹底を図った。

【事務】

(1) 総務部

(総務課)

- ア 組織変更に伴う病院庶務業務の統合および業務体制の整備
 - ・業務内容精査を実施した上で、課員スキルに合わせた業務分担を検討した。
 - ・法人総務側の業務マニュアル整備・更新はできたため、次年度には病院庶務業務を融合した業 務マニュアルの整備を実施予定。
- イ 決裁と事務効率化を目的とした電子稟議システムの導入
 - ・電子稟議システム導入は検討保留となったが、公印申請決裁の仕様変更を実施し業務効率化で きた。
- ウ 寄付受付担当部署として関係部署と連携し、寄付金募集案内を幅広く行い、寄付金獲得
 - ・学生父母向け、法人・一般向けのパンフレットを新たに作成し、幅広く配布し広報した。
 - ・1号館タイルを利用した大学環境整備寄付への高額寄付者向けの記念品を作成した。
 - ・120周年記念募金への寄付者には、記念誌事務局と連携し、記念誌をお届けした。
 - ・寄付金状況を毎月の理事会で報告し、全体の受入状況の把握に努めた。

(広報室)

- ア 学内/学外広報体制と組織力の強化
 - ・現広報体制の見直し及び広報管理規定を検証改定し、本学ブランドの価値向上という目標及び 施設(大学・病院他)の広報活動における責任体制を明確化した。
- ・学術広報も含めて本学のブランド価値向上に繋がる取材報道に協力し、パブリシティを獲得した。
- ・法令に基づく情報公開に積極的に取り組み、ユーザー視点に基づく本学ホームページを更新してきた。
- イ web 広報を活用したブランド力発信の強化
 - ・創立 120 年、吉岡彌生生誕 150 年における本学の歴史ブランド価値を学内外に積極的に情報発信し、好評判を得るパブリシティの強化に努めた。
 - ・本学ホームページ上の受験生サイトを見直し、動画コンテンツの積極的活用などを含め閲覧者 に見やすく分かりやすいページ更新に取り組んだ。

(防災・保安課)

- ア 全施設を包含した防災体制の構築
 - ・安否確認サービスシステム導入について、法人役員、緊急連絡網要員の運用を開始し、総合防 災訓練において送信訓練を実施した。
 - ・安否確認サービスについては、3月17日に発生した福島県沖地震の際、地震被害発生報告及び 学生の安否報告など緊急時における有効性が実証された。その後も有事に備え、定期的に送信 訓練を実施した。
- イ 確実な防火・防災管理業務の推進
 - ・火災受信装置の適正な保守管理のため、火災報知設備交換工事(3年計画)のうち、2年目の工事を実施した。
 - ・警察署等と連携し、東京オリンピックに向け重要防護施設に対する各種訓練を実施した。

・防火管理者及び自衛消防組織統括管理者を選任し消防署への届出を実施した。

(庶務課)

- ア 支援業務による大学全体のコスト削減への貢献
 - ・人事課と連携し、適材適所に課員の支援配置および人事異動を行った。
 - ・支援先を拡大するには、庶務課の人員などの問題点もあり、次年度の継続課題とした。

(2) 内部監査室

ア 監査業務

- ・公的研究費の管理・監査のガイドライン(実践基準)を踏まえ、ルールに基づいた内部監査を実施した。
- イ 監事との連携強化
 - ・監事監査をサポートし、監事との情報共有を行うなどして監事との連携に努めた。
- ウ 内部通報
 - ・法人内外から寄せられた内部通報に対して迅速に対応した。また、不正の早期発見及び早期解決に 努めた。
- エ ハラスメントへの対応
 - ・ハラスメント相談員及び経営統括部人事課と協働して、ハラスメントに関する相談、苦情に対応するとともに、ハラスメントの未然防止、意識啓発を図った。

(3) 医療安全・危機管理部

- ア 本学の卒前教育における患者安全学修の充実
 - ・両学部間での協同的な学修の姿勢・態度の元、患者安全の基本的事項に対する正しい知識習得とそれに基づく行動を実践させる事を目標とし、2021年度の対象 1・2 学年に対し、前年度からの積み上げである事を認識させ、チーム医療を意識した両学部間の意見交換やシミュレーション演習を取入れ、知識を実践に結び付ける工夫を行った。
- イ 生涯教育における患者安全学修の充実
 - ・多くの職員に、常に真摯に過去から学ぶことを通じて患者安全行動に結びつける事を意識して頂き、 医療安全文化の向上を目指す事を目標とし、医療安全啓発センターとしての取り組み方法の継続検 討を行った。
- ウ 本学附属医療施設間の情報共有および標準化
 - ・各医療施設の固有性を尊重しつつ、ベンチマークを通じてより効果的な医療安全施策の標準化をさらに進める事を目標に、連携会議をオンラインにて開催し、情報共有のみならず、共通課題(例: 転倒転落、患者取り違え等)をテーマとしたベンチマークを行った。
- エ 法人全体の危機管理体制の提言および BCP 体制確立
 - ・新型コロナ感染発生時における学内施設の標準化および BCP 案を策定する事を目標とし、法人内 全施設の患者受け入れ状況および学内陽性者情報を経時的に発信した。また、BCP 発動の際に必 要な情報収集に着目し、震災発生時に状況報告の要否を迷わず判断できるように、本学諸施設所在 地において震度4以上の地震であった場合も防災センターに状況連絡を行うという運用に変更し、 防災センターに集約された全情報が遅滞なく法人幹部および各施設に共有され、必要に応じて幹部 からの指示の示達や各施設からの応援要請に対応する仕組みを整えた。

2. 認可事項等

(1) 寄附行為の改定

・文部科学省から理事会及び評議員会の運営及び議事録の取り扱いについて私立学校法の趣旨を踏まえた 適切な運用を図るよう通知があった。また、それを踏まえ「学校法人寄附行為作成例」が改正された。 本学においても私立学校法の趣旨に沿った取り扱いを行うともに「寄附行為」の定めの明確化を図る ため、寄附行為の改定を行った。

(2) 大学学則、大学院学則、看護専門学校学則の一部改定

【大学学則】

- ・令和3年3月に保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正に伴う改定を行ったが、文部科学省より授業科目の単位数修正の指導があったため、別表Ⅱの改定を行った。
- ・別表Ⅲの2「その他の納入金」について、現状に合わせるため改定を行った。
- ・医学部・看護学部共同縦断科目である「医療・患者安全学」の授業数変更のため、別表 I の改定を行った。

【大学院学則】

- ・本学大学院に内科系専攻基幹分野として「リハビリテーション科学分野」を設置することで第8条の改 定を行った。
- ・大学院設置基準の一部を改正する省令の施行に伴い、「他大学院の単位互換及び入学前の既修得単位の 認定の柔軟化」及び「入学前の既修得単位等を勘案した在学期間の短縮」を行うため、第9条の改定を 行った。
- ・病態神経科学分野の日本語表記の変更に伴い、第8条の改定を行った。
- ・基幹分野「内分泌・小児外科学分野」について、名称を現状に合わせるため第8条の改定を行った。

【看護専門学校学則】

- ・校舎移転に伴い校地住所が変更になったため、第4条の改定を行った。
- ・令和3年2月に保健師助産師看護師学校指定規則の一部改正に伴う改定を行ったが、文部科学省より授業時間数修正の指導があったため、別表の改定を行った。

IV. 財務の概要

令和3年度は、引き続き施設将来計画を着実に実行した。新病棟建設地として計画している旧校舎棟(中央校舎、北校舎)、および巴記念教育棟増築予定地となる看護学部第1・3校舎棟の解体をすすめた。足立医療センター新病院に関しては、令和3年11月に竣工式典と内覧会が執り行われ、令和4年1月に足立区への移転が完了した。

収支面では、昨年に続き COVID-19 関連による収支へのマイナスインパクトは厳しいものであった。更に足立医療センター新病院移転に伴う一時的な診療制限等が大きく影響し、令和 4 年 1 月では約 25 億円の赤字に陥った。

収入に関しては、主な三病院で入院収入において大幅な減収となった。本院では1日平均で46人が減少している。旧東医療センターおよび移転先の足立医療センターでは1日平均で56人が減少。また八千代医療センターも1日平均で43人が減少している。三病院すべてが大幅な患者数の減少となったことで、医療収入は昨年度比で11億5千万円の減収となった。

支出に関しては経営統括理事の主導の下、その直轄組織である経営統括部を通じ引き続き徹底的な 経費削減を始め、人件費の適正化等の重要な経営課題に対し根気強く取り組んだ。その結果、人件費 は昨年度比で8億4千5百万円下回った。

なお、昨年に続き特例的な補助金として国の「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」としての 財政措置により、新型コロナウイルス感染症の患者を受け入れている医療機関に対する補助金が交付 された。本学に対しても COVID-19 関連の補助金として約 103 億円の補助金が交付され、表面上の基 本金組入前収支差額は予算を 30 億 6 千 4 百万円上回る 59 億 8 千 8 百万円の収入超過となった。

1. 事業活動収支計算書

(単位:百万円)

科目	R3年度予算	R3年度決算	差額
学生生徒等納付金	4, 942	4, 938	4
手 数 料	92	79	13
寄 付 金	757	704	53
経常費等補助金	5, 810	12, 956	△ 7,146
付 随 事 業 収 入	964	1, 365	△ 401
医 療 収 入	72, 550	73, 137	△ 586
雑 収 入	1,710	2, 215	△ 505
教育活動収入計	86, 825	95, 394	△ 8,568
人 件 費	35, 446	35, 773	△ 327
教育研究経費	41,622	45, 016	△ 3,394
管 理 経 費	4, 855	3, 873	983
減価償却費	6, 950	6, 662	288
徴収不能引当金繰入額	38	50	\triangle 12
教育活動支出計	88, 911	91, 374	\triangle 2, 462
教育活動収支差額	△ 2,086	4, 020	△ 6, 106
教育活動外収入	37	26	11
教育活動外支出	363	198	165
教育活動外収支差額	△ 326	△ 172	△ 154
経常収支差額	△ 2,412	3, 848	△ 6,260
その他の特別収入	5, 336	5, 636	△ 300
その他の特別支出	0	3, 497	△ 3, 497
特別収支差額	5, 336	2, 140	3, 196
基本金組入前収支差額	2, 924	5, 988	△ 3,064
基本金組入額合計	6, 412	△ 8,599	15,011
当年度収支差額	9, 336	△ 2,611	11, 947
基本金取崩額	0	10, 170	△ 10, 170
前年度繰越収支差額	△ 135,080	△ 110, 533	△ 24, 547
翌年度繰越収支差額	\triangle 125, 744	\triangle 102, 975	\triangle 22, 769
(参考)			
事業活動収入合計	92, 198	101, 056	△ 8,858
事業活動支出合計	89, 274	95, 069	△ 5,794

新型コロナウイルス感染症に伴う補助金として 99 億円の収入がありました。

年金引当金における数理上資産が上昇し、4億円の収入がありました。

本院の電子カルテ更新費用として 13 億円、 足立医療センター移転関連費用として 10 億 円、また中央・北校舎解体工事として 6 億円 の支出がありました。

上記の中央・北校舎解体工事は予算策定時に は管理経費として 10 億円を計上していたた め予算より 9 億 8 千万円下回りました。

旧東医療センター土地建物除却費用として 18億円、掛川キャンパス土地建物除却費用と して15億5千万円がありました。

基本金組入前収支差額は29億2千4百万円 の予算に対して、30億6千4百万円上回る 59億8千8百万円の収入超過となりました。

(注記) 記載金額は、百万円未満を四捨五入で表示。

2. 資金収支計算書

収入の部

(単位:百万円)

	科			目		R3年度予算	R3年度決算	差額
学	生生征	走等	納尓	金川	又入	4, 942	4, 938	4
手	数	**************************************) 타	収	入	92	79	13
寄	付	<u> </u>	È	収	入	1, 101	805	296
補	助	<u> </u>	È	収	入	10, 742	18, 317	\triangle 7, 575
資	産	売	却	収	入	0	695	\triangle 695
付	随	事	業	収	入	964	1, 365	△ 401
医	步	寮	Ų	Z	入	72, 550	73, 137	△ 586
受	取利	息·	配当	金山	又入	37	26	11
雑		4	Z		入	1,710	1, 908	△ 198
借	入	金	等	収	入	30,600	17, 153	13, 447
前	受	刍	È	収	入	1,531	1, 529	2
そ	Ø	他	の	収	入	20, 068	23, 569	△ 3,501
資	金巾	ス入	調	整勘	〕定	△ 19,532	△ 22, 351	2, 819
前	年度	繰走	逑 支	払資	金	28, 110	28, 110	
合					計	152, 916	149, 280	3, 636

新型コロナウイルス感染症に伴う補助金として 103 億円の収入がありました。

足立医療センター新病院建築資金として 170 億円の借入をしました。

支出の部

	科			目		R3年	E度予算	Ī	R3年度沿	夬算	差	客	頁
人	件	費		支	出		35, 5	13	36	, 581	\triangle	1,	068
教	育研	究系	至于	費 支	出		41, 62	22	44	, 986	\triangle	3,	364
管	理	経 犭	貴	支	出		4, 8	55	3	, 956			899
借	入金	等系	1 ,	息支	出		30	63		198			165
借	入金	等步	豆剂	斉 支	出		10, 6	38	4	, 165		6,	473
施	設	関(系	支	出		19, 9	94	19	, 327			668
設	備	関(系	支	出		10, 2	47	6	, 464		3,	784
資	産	運	刊	支	出			1		1			
そ	の	他	ク	支	出		17, 2	23	15	, 894		1,	329
資	金支	出書	刮 彗	整 勘	定	Δ	15, 3	58	△ 15	, 469			111
次	年度	繰越	支	払資	金		27, 8	17	33	, 178	\triangle	5,	361
合					計		152, 9	16	149	, 280		3,	636

各施設及び足立医療センター移転に伴う機器購入費用として 64 億 6 千 4 百万円を支出しました。

次年度繰越支払資金は 278 億 1 千 7 百万円 の予算に対して、53 億 6 千 1 百万円増加の 331 億 7 千 8 百万円となりました。

(注記)記載金額は、百万円未満を四捨五入で表示。

3. 貸借対照表

資産の部

(単位:百万円)

科		目		本年度末	前年度末	差額
固定資	産			121, 682	106, 769	14, 914
土			地	20, 441	21, 516	△ 1,074
建	物・	構築	物	71, 652	47, 679	23, 973
機	器	備	品	14, 634	11, 063	3, 570
図			書	800	854	\triangle 54
車			輌	24	20	4
建	設	仮 勘	定	344	11, 574	△ 11,230
特	定	資	産	13, 238	13, 237	1
その	り他の)固定資	産	549	825	△ 277
流動資	産			55, 028	50, 999	4, 029
現	金	預	金	33, 178	28, 110	5, 068
未	収	入	金	20, 763	21, 685	△ 922
そ	の他	」 貯 蔵	品	44	44	
その	つ他の)流動資	産	1,043	1, 161	△ 117
資 産	こ の	部 合	計	176, 710	157, 768	18, 943
<i>1</i> 1± «	1			•	•	

建物等の償却資産は減価償却累計額を 控除したあとの金額を表しています。

足立医療センター新病院完成に伴う建 設勘定等への振替による減少です。

期末支払資金の目安となる第 4 号基本 金相当額 (69 億 4 千 6 百万円) 以上を 保持しています。

負債の部

科	目	本年度末	前年度末	差額
固定負債		64, 162	50, 871	13, 291
長 期	借入金	44, 935	29, 593	15, 343
学	校債	1, 113	1, 740	△ 627
退職給	· 与 引 当 金	16,821	17, 629	△ 808
長期	未 払 金	641	851	△ 210
長期	預 り 金	116	124	△ 8
年 金	引 当 金	536	934	△ 399
流動負債		26, 897	27, 233	△ 335
短期	借入金	9, 157	11, 300	△ 2, 143
学	校債	1,050	635	415
未	払 金	14, 518	12, 960	1, 558
その他	の流動負債	2, 172	2, 338	△ 166
負債の	部合計	91,059	78, 104	12, 955
基本金		188, 626	190, 197	△ 1,571
第 1 号	基 本 金	179, 162	180, 734	△ 1,573
第 2 号	基 本 金	0	0	
第 3 号	基 本 金	2, 518	2, 517	1
第 4 号	基 本 金	6, 946	6, 946	
繰 越 収	支差額	\triangle 102, 975	△ 110, 533	7, 559
純 資 産	の部合計	85, 651	79, 664	5, 988
負債及び純	資産の部合計	176, 710	157, 768	18, 943
(注記) 渥	战価償却累計額	108, 182	110, 353	-2, 171

足立医療センター新病院建築に係る借入金により、前年度末より 153 億 4 千 3 百万円増加しました。

基本財産のうち自己資金による固定 資産の調達額を表します。

3 年度は東医療センター除却や掛川 キャンパスの有姿除却より、組入額 が 15 億 7 千 1 百万円のマイナスと なりました。

資産合計から負債合計を差し引いた 正純資産は、856億5千1百万円とな り、前年度末より59億8千8百万円 増加となりました。

(注記) 記載金額は、百万円未満を四捨五入で表示。

◎主要財務比率表

(単位:%)

											(単位:%)
上		算	式	$(\times 1$	00)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
人件費比率	人		1	件		費					
\bigcirc	事	業	活	動	収	入	42.7	39. 7	38. 9	36. 7	35. 4
人件費の事業活動収入に対する	割合をえ	テすけ	率								
教育研究経費比率	教	育	研	究	経	費					
Z	事	業	活	動	収	入	51.3	51.5	50. 9	47. 5	50. 3
<u> </u>					ЧХ		1	01.0		1	
教育研究経費の事業活動収入に 管理経費比率	対りる記	別合を	ゴハタレ 理	<u>L 学</u> 経		費					
■ 日 庄 庄 貞 九 宇	事	عللد					4.8	4. 4	4.8	5. 3	4.7
<u>-</u>		業	活	動	収	入_	1.0	1. 1	1.0	0.0	7. 1
管理経費の事業活動収入に対す				haha .	6-L / I	^					
学生生徒等納付金比率	学	生 4	生徒	等;	納付	金					
	事	業	活	動	収	入	5.0	4. 9	4.8	4. 7	4. 9
学生生徒納付金の事業活動収入	に対する	る割合	を示す	上比率							
寄付金比率(※)	寄		1	付		金		1.1		1.3	0.9
H 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	事	業	活	動	収	入	1.2		1. 2		
寄付金の事業活動収入に対する	割合を	示す比	二率								
44 nl. A 11. etc. (\\\)	補		J	助		金		6. 4	7. 0	16.3	18. 1
補助金比率(※)	事	業	活	動	収	入	4.6				
補助金の事業活動帰属収入に対	する割る	今を示	す比率	枢		-					
	医		療	収		入					
医療収入比率	事	業	活	動	収	入	84. 6	83. 6	83. 6	74. 4	72.4
 医療収入の事業活動収入に対す				293	-1/2						
基本金組入率	基	<u>,,, ,</u> 本	金	組	入	額					
\supset	事	業	活	動	収	入	1.2	5. 2	1.5	7. 4	8. 5
		,,,,									
固定比率	本金を利	出ノくれ	定 定	· 小, 資		産					
	純純				•	 -	138. 7	133. 8	143. 9	134. 0	142. 1
<u>–</u>				資		産	130.1	133.0	140.5	104.0	142.1
固定資産が外部負債に頼らず取得さ		かを見									
流動比率	流		動	資		産	100.1	161.0	157.0	100.4	004.6
$ar{Q}$	流		動	負	l		138. 1	161.8	157.8	186. 4	204. 6
短期的な支払能力を見ることが		七率									
総負債比率 へ	総		- 1	負		債					
Σ	総		Ì	資		産	47. 6	47. 1	49. 4	49. 5	51. 5
総資産に対する他人資金に対す	る依存	度を見	しること	とがで	きる比	率					
負債率	総	負	債	— jì	前 受	金					
\bigcirc	総		ì	資		産	46. 4	46. 1	48. 5	48. 5	50. 7
 他人資金が自己資金を上回っていな	いかどう	かを見	見ること	ができ	る比率						
前受金保有率	現		金	預	į	金					
\triangleright	前		į	受		金	1, 157. 0	1, 437. 3	1, 504. 9	1, 825. 5	2, 170. 3
	を示す!	七率					1				
基本金比率	基			本		金					
\supset	基	本		· 要 組	. 入		93. 0	93. 1	88. 3	89. 3	83. 6
<u> </u>				女 科	· 八	假	1				
要組入額に対する組入済基本金	の割合る	と不す					<u> </u>		l	l	<u> </u>

^{◇:}高い値が望ましい ◇:低い値が望ましい

[※] 会計基準改訂により計算書類では現物寄附、施設設備補助金とそれ以外の寄附金、補助金が区分されているが、 財務比率の計算上は合算されています。

^{※2} 会計基準改訂により従来の帰属収入は平成27年度より事業活動収入に科目名称が変更となっています。